

令和4年度 東部地域部会報告

開催日： 毎月第3木曜日 9：30～11：30

場所： 旭川荘内 会議室

参加メンバー： 中区・東区管内の相談支援事業所など
15～20名の参加

- 内容：
- 1 新規事業所の紹介
 - 2 情報提供（制度について、研修会の紹介など）
 - 3 研修会の開催
 - 4 GSV
 - 5 グループワーク
 - 6 福祉事務所・保健センターとの情報交換会
 - 7 日中支援型GH 評価
 - 8 地域移行支援

① 研修会

5月 「グループスーパービジョンの基礎

～地域生活支援の下支え～」

岡山市障害者基幹相談支援センター
(岡山県障害者相談支援アドバイザー)

村上 眞 氏

※ 事例検討との違いを学んだ

10月 「ヤングケアラーについて」

中区保健センター 槌田センター長

竹田 保健師

※ ヤングケアラーについての定義の共有と視点の持ち方

② GSVについて

相談支援専門員や療育機関との連携が図りにくい、保育園への働きかけについて

- ・ ASD 知的障害のある児童
療育機関からの紹介で相談支援に入る
「相談員がついたらケース会議をしてくれる」と保護者に伝えられて
おり、保護者も希望している。
相談員が園に会議の申し入れをしたが「園では困っていない」と拒否。
今後連携をどのように図っていけばよいか。

→ これまでの園と保護者の関わり方について聞きとる
相談支援専門員の役割について園に知ってもらう
ケース会議の必要性について、あらためて考えてみる
「ケース会議」というワードの重さがあるのでは
「情報共有」などの提案のしかたを工夫してみる

③ グループワークについて

- ・ 部会 4～6人の小グループでセッティング
- ・ 「ヤングケアラーについて」
「感染・災害 BCPについて」
「アセスメントについて」
「地域課題について」

などについて、話題提供のあと各グループで話合う時間をもつようにした。



テーマについて考えるのはもちろんですが・・・

顔はわかるけど話したことがない → メンバー同士のつながり強化
少人数だと話しやすい → 部会に来たら、何かしゃべって帰ろう！
主体的な参加、相談員のストレス軽減

④ 日中支援型GH 評価

9月15日 RASIEL平井

日中サービス支援型共同生活援助 事業評価シートに基づいて部会内で評価

- ・利用者16名 平均障害支援区分 4.5 強度行動障害の方1名
- ・16名中2名外部の日中活動サービスを利用 5名は検討中
- ・15名が 計画相談支援利用 残り1名も今後利用予定
- ・6名が成年後見制度利用
- ・虐待予防としては、オンラインを活用し動画を視聴し研修
(部会からの質問)
- ・強度行動障害の方はどんな特性があり、どんな対応をしているか
- ・外部のサービスについて、定期的に把握する場はあるか
- ・開所後半年ほどで3人ほどの退居があったが、その理由は何か

⑤ 地域移行支援について

令和4年度の地域移行ワーキングは、定例の地域部会 終了後に希望する方に参加してもらう形で実施していた。

しかし、定例の部会の時間が延長したり、ケースが少ないなどの状況があり、毎月安定して実施することができなかった。

基幹センターからの働きかけもあり、再度地域移行ワーキングのありかたについて検討。

R5年2月から林病院で月1回開催

R5年度以降は、障害者支援施設からの地域移行についても検討していくため、隔月で障害者支援施設で開催することを話合った。

令和4年度の振り返り、課題

- 1、コロナ禍ではあったが、感染対策に配慮しながら対面で開催した。（zoomも一時用意していたが、参加者がいなかった）
- 2、定例部会の前にコアメンバー会議を開き、質の高い相談事業やメンバーが来たいと思う部会の開催について話し合った。
- 3、少人数でのグループワークを実施することで、参加者が主体的に関わるようになった。
- 4、GSVでケースをだしてもらっているが、「事例検討」になっていないか？
- 5、それぞれが現場で課題に感じていることや困っていることを「地域課題」として捉えるには、もう一工夫必要。